

平成27年度
島根県学力調査
結果概要

平成28年2月2日（火）
島根県教育委員会

I. 実施概要

1. 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握するとともに、全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」と言う。）等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の教育施策の充実と学校における指導の一層の改善に資する。

2. 実施日 平成 27 年 12 月 15 日（火）・16 日（水）

予備日 12 月 17 日（木）～21 日（月）

3. 実施校数

公立小学校（県立特別支援学校小学部を含む） 213 校

公立中学校（県立特別支援学校中学部を含む） 102 校

（国立小・中学校及び私立中学校は参加していない。）

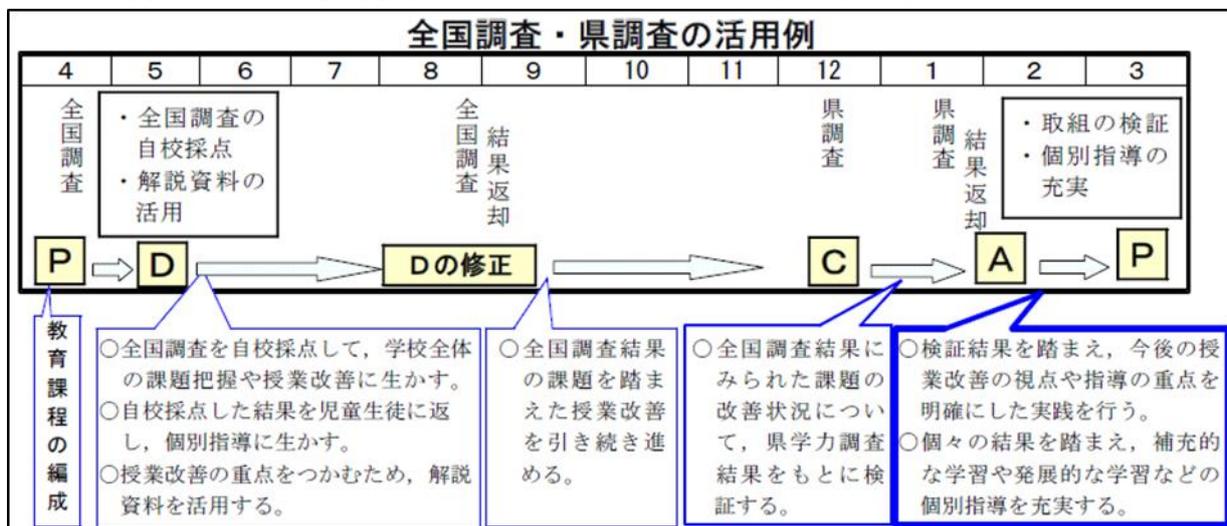
4. 実施学年・教科・人数

| | 教科 学年 | 教科に関する調査 | | | | | 生活・学習に 関する 意識調査 | 実施人数 |
|-----|----------|----------|----|----------|----|----|-----------------------|-------|
| | | 国語 | 社会 | 算数 数学 | 理科 | 英語 | | |
| 小学校 | 第 3 学年 | ○ | △ | ○ | △ | △ | ○ | 4,100 |
| | 第 4 学年 | ○ | △ | ○ | △ | △ | ○ | 5,491 |
| | 第 5 学年 | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | 5,783 |
| | 第 6 学年 | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | 5,824 |
| 中学校 | 第 1 学年 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 5,786 |
| | 第 2 学年 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 5,943 |

5. 昨年度からのおもな変更点

(1) 実施時期

今年度より 12 月実施に変更し、新たな PDCA サイクルを構築する。



(理由)

- ①全国調査で明らかになった課題を改善するための指導の取組を、島根県学力調査（以下「県調査」と言う。）で検証するというPDCAサイクルを確立し、指導の改善を効果的に進める。
- ②今年度の指導の状況について、年度内のうちに客観的に評価し、個別指導を充実することにより、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるようにする。

(2) 各教科の学力調査

これまでは委託業者の標準問題を使用していたが、今回の調査より島根県独自のオリジナル問題を作成。全国調査等で明らかとなった課題の改善状況を検証することをねらいにした問題に変更。

(3) 生活・学習に関する意識調査

全国調査結果を踏まえた取組の検証という観点から、全国調査の質問項目と同じ項目を増加。

(4) 課題をとらえやすい帳票と分析ツールの提供

各学校が自校の課題をとらえやすいように帳票の表示を工夫するとともに、学力と意識のクロス分析や結果チャートが簡単に作成できるような分析ツールを新たに提供。

(5) 子ども達自身の改善への取組を促すための個人帳票の提供

結果を記載した「個人成績表」に加え、事後学習に活用できる「フォローアップシート」や生活・学習意識調査の回答状況から改善すべき事項を示した「生活・意識改善シート」を新たに提供。

6. 用語

- 「正答率」 各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合（％）を県または市町村単位で平均した値。
- 「観点」 指導や評価のために、児童生徒が身に付けた力を分析的に捉える視点。「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つ。
- 「領域」 各教科の学習内容を系統的に示したもの。算数であれば「数と計算」「図形」など。

7. 公表する調査結果（教育指導課ホームページにも掲載）

(1) 平成27年度島根県学力調査 結果概要

I 実施概要

II 全国調査でみられた主な課題の改善状況

III 各教科の状況

IV 生活・学習に関する意識調査結果の概要

V 教科に関する調査と意識調査のクロス分析結果

VI 今後の対応

(2) 平成27年度島根県学力調査 教科別調査結果（資料1）

(3) 平成27年度島根県学力調査 設問別解答状況一覧（資料2）

(4) 平成27年度島根県学力調査 生活・学習意識調査に関する結果一覧（資料3）

(5) 平成27年度島根県学力調査 市町村別正答率一覧（資料4）

※ただし、町村内の学校数が1校である場合など、数値が学校1校の数値になる場合は公表しない。

Ⅱ. 全国調査でみられた主な課題の改善状況

1. 改善がみられた事項の例

- 小学校算数の短期的な課題の内、小数のひき算の定着が図られた。

<H27年4月全国調査>

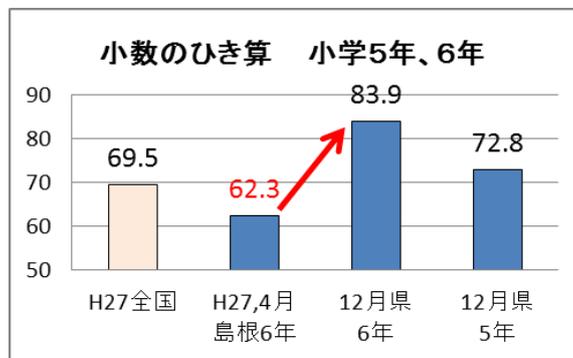
6.79 - 0.8を
計算しましょう

正答率
島根県 62.3%
全国 69.5%

<12月県調査>

5.68 - 0.7を
計算しましょう

正答率
島根県 83.9%



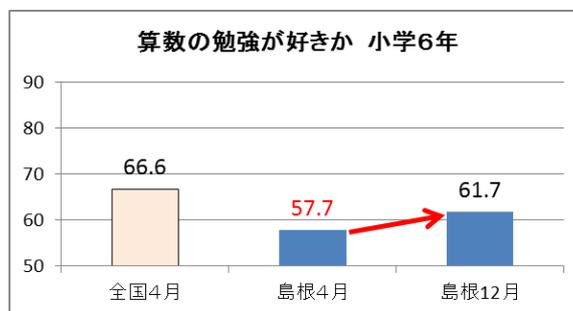
- 算数の勉強が好きなきどもがやや増える。

<H27年4月全国調査>

肯定的回答率
島根県 57.7%
全国 66.6%

<12月県調査>

肯定的回答率
島根県 61.7%



- 算数学習指導の改善傾向が見られる。

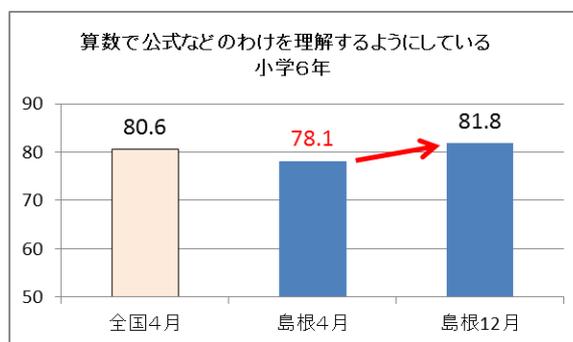
「算数で公式などのわけを理解するようにしている」

<H27年4月全国調査>

肯定的回答率
島根県 78.1%
全国 80.6%

<12月県調査>

肯定的回答率
島根県 81.8%



- めあて・振り返り学習に対する取組が改善している。

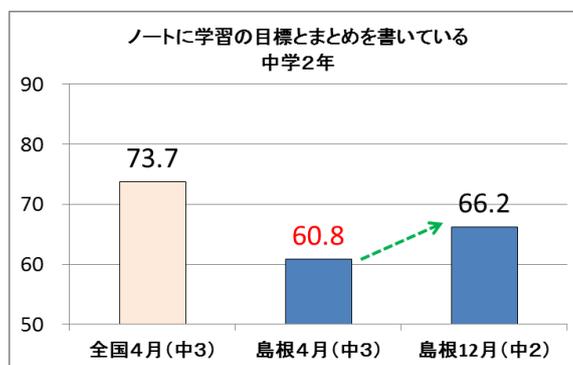
「ノートに学習の目標とまとめを書いていると思う」

<H27年4月全国調査>

肯定的回答率 (中3)
島根県 60.8%
全国 73.7%

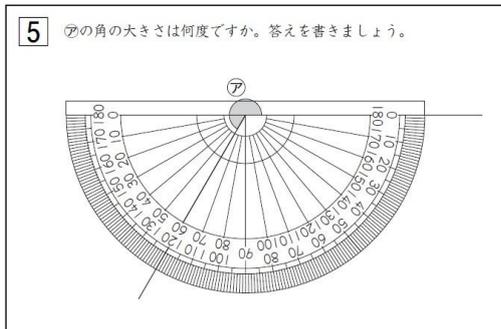
<12月県調査>

肯定的回答率 (中2)
島根県 66.2%



2. 引き続き改善が必要な事項の例

- 小学校算数の短期的な課題の内、「 180° よりも大きい角の大きさを求める」ことが定着していない。

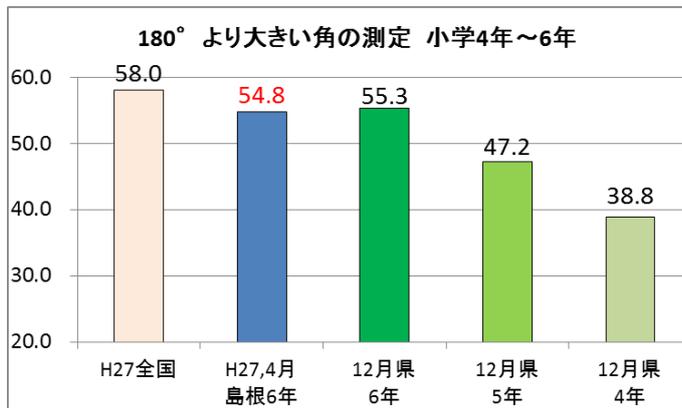


<H27年4月全国調査>

正答率

島根県 54.8%

全国 58.0%



<12月県調査> 正答率

小6 55.3% 小5 47.2% 小4 38.8%

- 一定の条件のもとで自分の考えを書くなど、目的や意図に応じて考え、説明する力が身に付いていない。

三 — 線部A・B「おせっかいは、やいてもらえらうちが花だよ」という言葉に対する静香の気持ちは、AとBで異なっています。A・Bそれぞれに対する静香の気持ちと、気持ちが変わった理由を、次の条件にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 — 線部A・Bに対する静香の気持ちをそれぞれ書くこと。

条件2 気持ちが変わった理由を、文章の内容を取り上げて書くこと。

条件3 八十文字以上、百字以内で書くこと。

「登場人物の心情が変化した理由を条件に従って説明する」(記述式 80字以上 100字以内)
[中2 正答率 12.1%]

- 授業以外に勉強する時間が、特に中学生で短い。

平日に授業以外で1時間以上勉強する割合

<H27年4月全国調査>

(中3)

島根県 55.2%

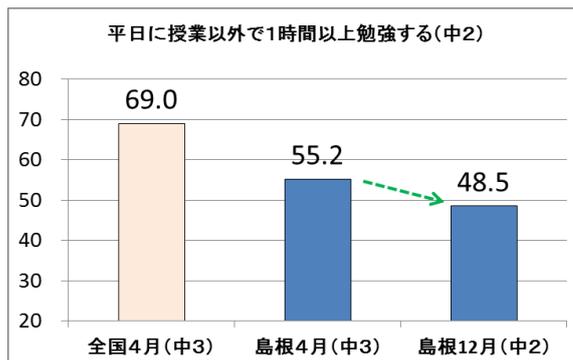
全国 69.0%



<12月県調査>

(中2)

島根県 48.5%



Ⅲ. 各教科の状況

1. 国語

【小学校】

| | |
|---------|---|
| これまでの課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○条件に合う情報や根拠となる情報を読み取ったり活用したりする力 ○立場を明確にして質問や意見を述べる力 ○わかったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く力 ○言葉の特徴やきまりに関する事項、ローマ字など |
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○課題解決的な言語活動を遂行する中で、必要な情報を読み取り活用することに課題がみられる。 ○自分の考えを書くことはできるが、理由を挙げたり、根拠を明確にしたりして書くことに課題がみられる。 ○言葉の特徴やきまりに関する事項、ローマ字などの定着について引き続き課題がある。 |

【中学校】

| | |
|---------|--|
| これまでの課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめる力 ○話の構成を考えて話す力、考えを比べながら聞く力 ○伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にしたり構成を工夫したりして書く力 |
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○「伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にしたり構成を工夫したりして書く」力について、第2学年で改善がみられた。 ○内容は正しく読めているが文章に即して適切に説明できていないことによって正答と認められない解答が多く、課題がある。 ○「論理的な構成や展開を考えて話す」力に課題がある。 |

2. 社会

【小学校】

| | |
|---------|--|
| これまでの課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習した内容を思考・判断する材料とし、別の事象に対して活用する力 ○思考力・判断力・表現力 ○地図やグラフなどの資料を活用する力 |
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○「知識」に関わる問題と比較して「活用」に関わる問題が両学年ともに低く課題がみられる。 ○事象を関連付けて考察することやそれを適切に表現することには、引き続き課題がみられる。 ○単一の資料から必要な情報を読み取る力は定着しているが、複数の資料をもとに考察することには、引き続き課題がみられる。 |

【中学校】

| | |
|---------|---|
| これまでの課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○思考力・判断力・表現力 ○地図やグラフなどの資料を活用する力 ○世界の諸地域、日本の諸地域の学習において、諸地域の特色を大まかにとらえる力 |
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○思考・判断した過程や結果を、適切な用語や自分の言葉で表現する力に依然として課題がみられる。 ○図や表、グラフ等の資料を読み取る力は定着してきており、特に写真や絵画資料を読み取る力は比較的高い。しかし、地球儀や地図を読み取る力には引き続き課題がある。 ○世界の諸地域、日本の諸地域の学習において、諸地域の特色を大まかにとらえる力には依然として課題がみられる。 |

3. 算数・数学

【小学校】

| | |
|---------|--|
| これまでの課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○小数や分数の意味理解 ○角の大きさ、重さ、かさ、面積などの量感 ○割合についての理解 ○筋道を立てて考え、考えを記述して表現する力 |
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○観点別に見ると、「数量や図形についての技能」に関わる問題について、各学年とも定着が図られていることがうかがえる。 ○「数学的な考え方」については、いずれの学年も低い傾向にある。 ○領域別にみると、「量と測定」について「180° よりも大きい角の大きさを求める問題」で正答率が低く、工夫して量を測定することについて引き続き課題がある。また、「数と計算」について「小数のかけ算について数直線を用いて考える問題」では、比較量が基準量よりも小さい場合に、わり算やひき算の問題との混同がみられる。 |

【中学校】

| | |
|---------|--|
| これまでの課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○意味理解、概念理解 ○数学的な見方や考え方を使って考える力 ○整数や図形の性質について説明する力 |
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○「数量や図形についての知識・理解」については定着がみられる。 ○「数学的な見方や考え方」については、証明問題で引き続き課題がある。 ○「数学的な技能」については、文字式の計算や方程式では正答率が60%を下回るものが多くあり課題がある。また、文字式で表したり、目的に応じて式を変形したりすることに課題がある。 |

4. 理科

【小学校】

| | |
|---------|---|
| これまでの課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験等の技能の定着 ○理科での学習を実生活と関係付けたり、現象の要因について考えたりすること ○予想や結果の考察等において、自分の考えを文章に記述して表現すること |
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○「知識」に関わる問題と比較して「活用」に関わる問題が第5学年、第6学年ともに約10ポイント低く、全国調査と同様な傾向がみられる。 ○「科学的な思考・表現」について、理科の学習を実生活と関連付けて考えることや、条件制御をする等実験方法の妥当性を検討することが難しい。 ○「観察・実験の技能」について、実験器具の操作で約4割の児童しか理解できていないものがある。 ○領域別に見ると、第5学年、第6学年ともに「エネルギー」領域において、他の領域と比較して正答率が低い。 |

【中学校】

| | |
|---------|---|
| これまでの課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○理科での学習を実生活と結び付けたり、学ぶ意義や有用性を実感したりすること ○現象について用語を取り入れながら、記述する場を設定し、科学的に思考・表現する力 ○「光と音の性質」「電流の性質」「水溶液」「物質の状態変化」「化学変化」「気象とその変化」の内容の定着 |
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○実生活と関連付けながら科学的な用語などを取り入れ説明することに関して依然として課題がみられる。 ○事物・現象についての原理の正しい理解をもとに、科学的な用語などを取り入れながら説明することに依然課題がみられる。 ○化学的領域、地学的領域について正答率が低く、化学的領域については、全国調査に引き続き課題である。「光と音の性質」「電流の性質」「水溶液」「物質の状態変化」「化学変化」の内容について、依然課題がみられる。 |

5. 英語

| | |
|---------|---|
| これまでの課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○まとまりのある英文を聞いたり読んだりして、その内容や要旨を把握する力 ○聞いたり読んだりした英文の内容について、英語で話したり書いたりする力 ○まとまりのある英文を話したり書いたりする力 |
| 今回の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○領域別に見ると、特に「書くこと」と「聞くこと」の領域間の差が大きい。 ○まとまりのある英文を書くことに大きな課題がある。 ○「活用」にかかわる問題において、聞いたり読んだりした内容をもとに、思考し判断したうえで英文を書くことに課題がみられ、無解答率も高い。 |

IV. 生活・学習に関する意識調査結果の概要

1. 全国学力・学習状況調査「質問紙調査」結果等からみられた課題

○学習に対する関心・意欲・態度

「算数の勉強が好き」「算数の授業の内容はよく分かる」「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」など、算数の勉強についての質問において肯定的な回答が低い。

○学習習慣

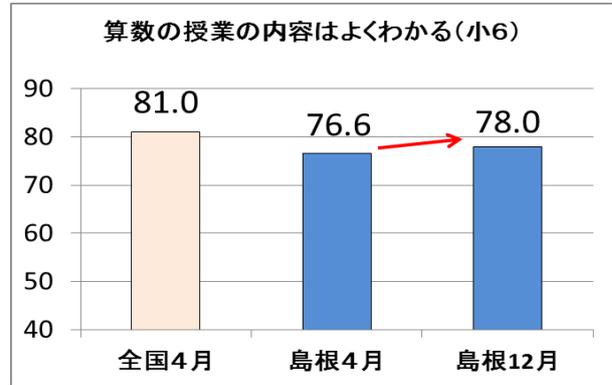
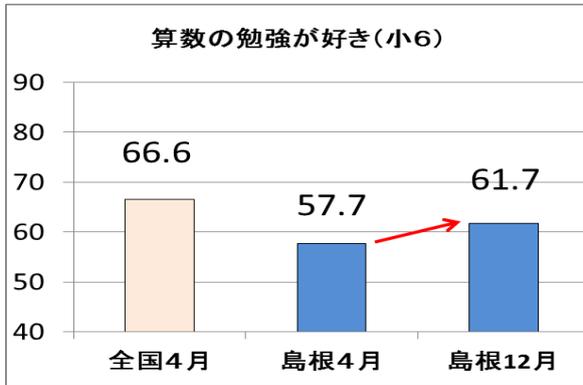
平日に授業以外に1時間以上勉強する生徒の割合が特に中学生で低い。

○授業改善の状況

授業の最初にめあてを示す活動や、授業の最後に振り返りを行う割合は増えてきているが、「ノートに学習の目標とまとめを書いていたと思う」割合は全国を下回っている。

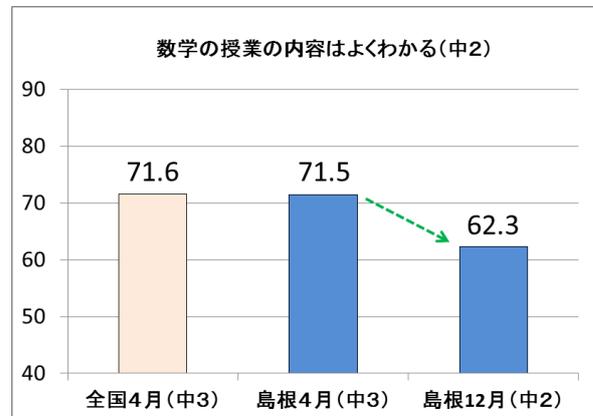
2. 全国学力・学習状況調査で特に課題がみられた項目の状況（小6と中2を中心に）

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

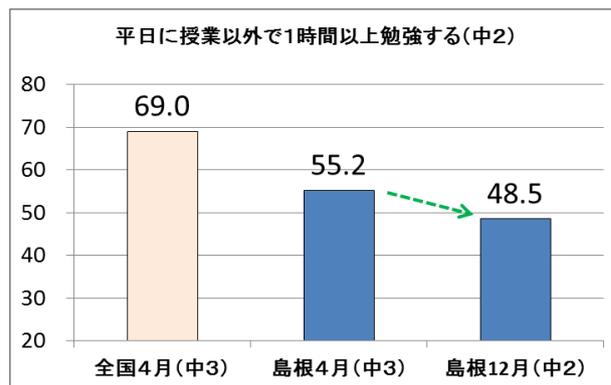
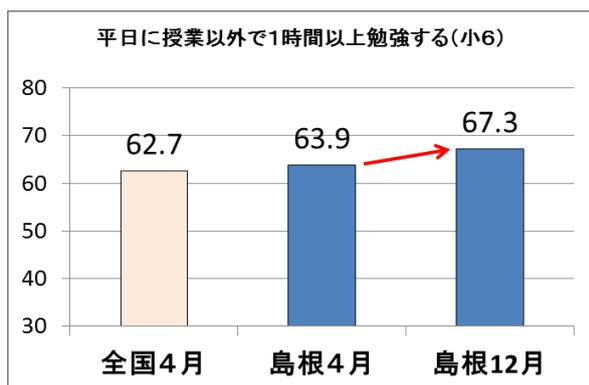


・小6の「算数の勉強が好き」「算数の授業の内容はよく分かる」の肯定的な回答率が、全国調査時に比べ、それぞれ4ポイント、1.4ポイント上昇し、改善の傾向がみられた。「解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」は1.9ポイント、「公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている」は3.7ポイント、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」は3.4ポイントと、それぞれ数値が上昇しており、このような指導の改善が、関心・意欲・態度の向上につながったと考えられる。

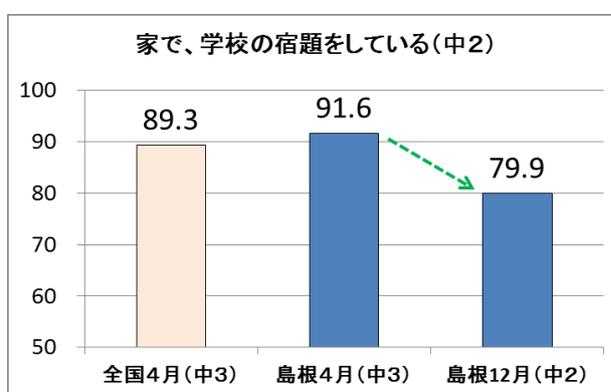
・中2の「数学の授業の内容はよくわかる」の肯定的な回答率が62.3%で、全国調査時の中3の数値に比べて、9.2ポイント低い。「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。」も5.1ポイント低くなっているなど、中2の数学の学習に関する質問項目は、全国的に全国調査時の中3の数値に比べて低くなっており、改善が必要である。



(2) 学習習慣

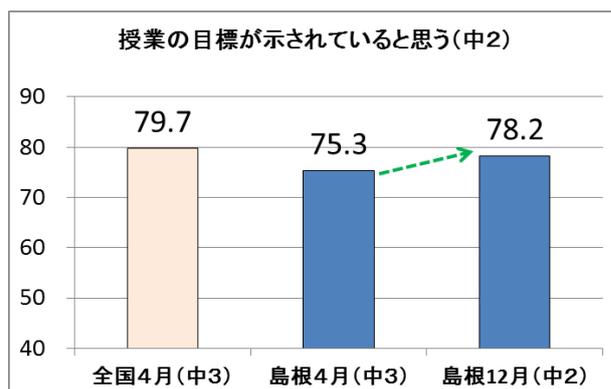
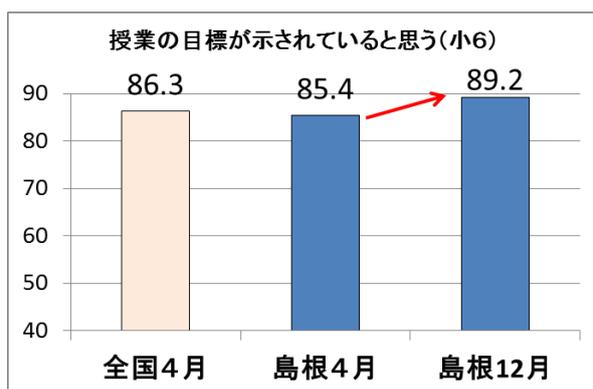


- ・小6については、1時間以上学習する児童の割合が全国調査時に比べても3.4ポイント増加し、全国に比べても高くなっている。
- ・中2で授業以外に1時間以上学習する生徒の割合は48.5%で、全国調査時の中3の数値と比べても低く、全国平均を大きく下回っている。また、「家で学校の宿題をしている」「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」など、中2の数値が全国調査時の中3の数値を下回っている項目が多く、課題である。

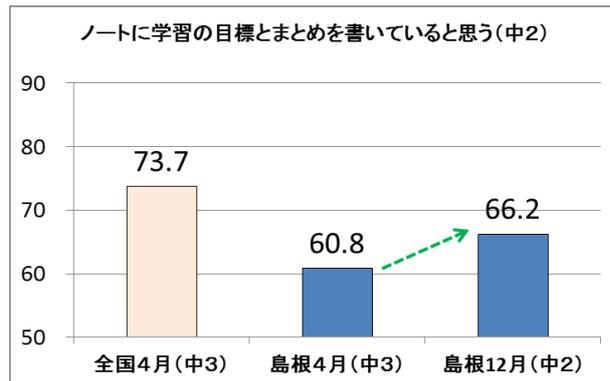
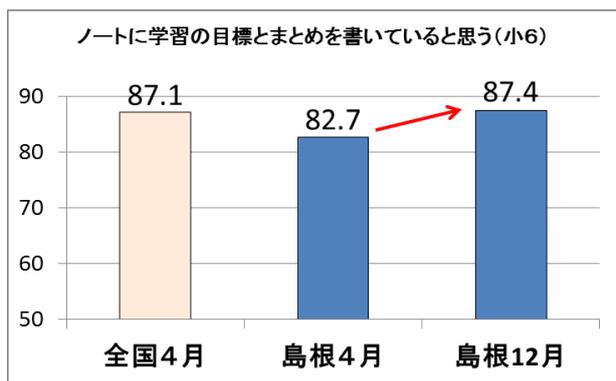


(3) 授業改善の状況

①めあて・振り返り学習

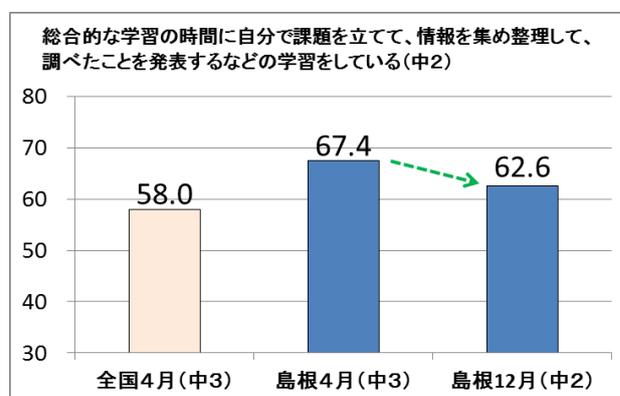
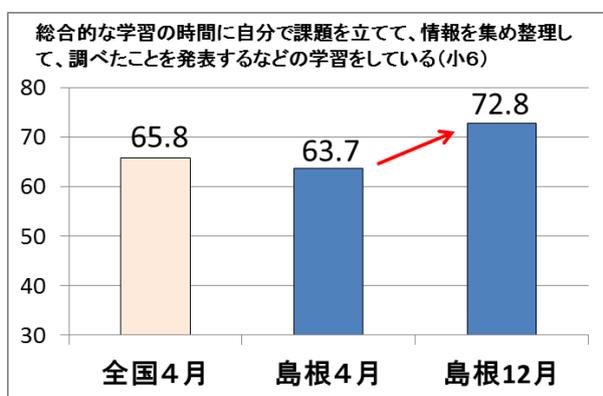


- ・「授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思う割合」は、小6、中2とも全国調査時の数値から上昇している。「授業の最後に学習したことを振り返る活動」も4月の数値から改善傾向にあり、これらの活動が定着してきている状況にある。



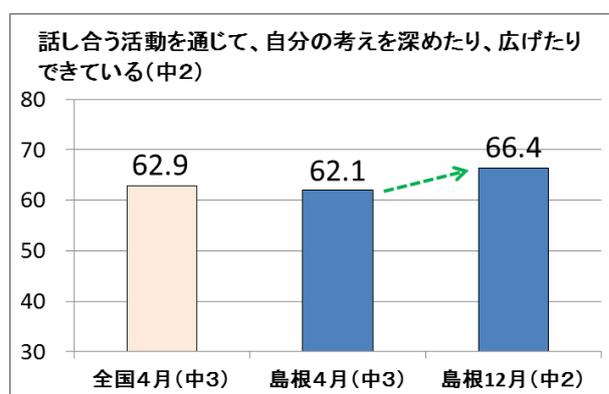
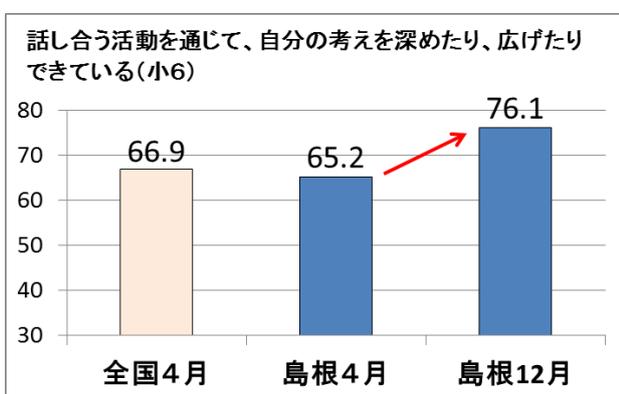
- ・「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていると思う」割合は、全国調査時には小6、中3とも全国を下回っていたが、改善してきている。

②総合的な学習の時間の取組



- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいる」において、小6が全国調査時の4月に比べて大幅に改善している。中2は、全国調査時の全国平均は上回っているが、全国調査時の中3よりも下回っている。

③言語活動



- ・「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」について、小6は全国調査時から大幅に改善している。中2も全国調査時の中3に比べてポイントが高く、改善傾向にある。

3. その他の状況

※ 〈 〉 は資料3の質問番号

【自尊感情・自己有用感】

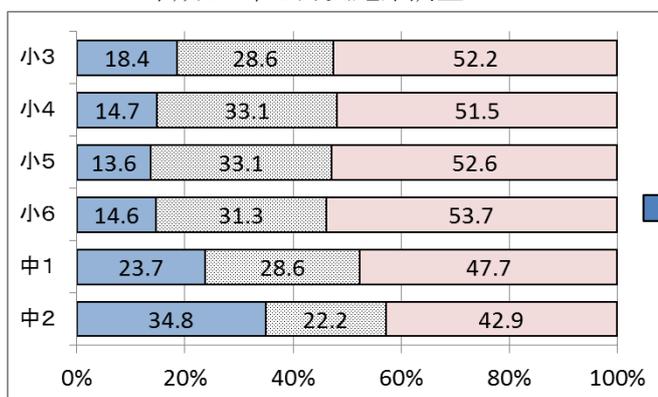
- ・「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」〈2〉について、小6の肯定的回答が80.2%で、全国調査時（4月）に比べ4.5ポイント改善している。
- ・「自分にはよいところがあると思う」〈3〉について、小6の肯定的回答が79.8%で、全国調査時（4月）に比べ4.9ポイント改善している。

【メディア利用】

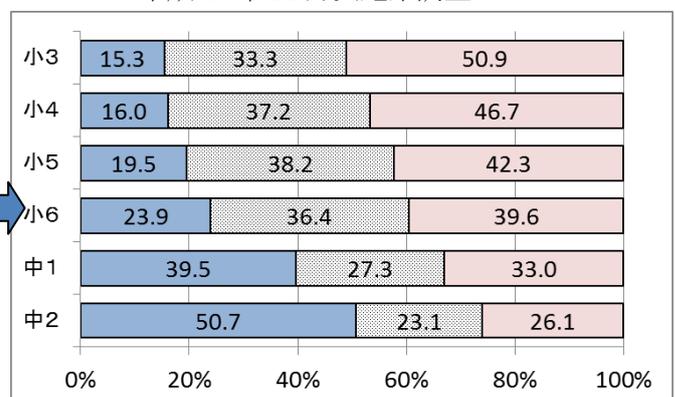
- ・携帯電話やスマートフォンの使用時間〈8〉については、昨年度の県調査に比べて、全体的に増加している。

普段（月曜日から金曜日）、1日あたり、携帯電話やスマートフォン使っている割合
（左から「1時間以上」「1時間より少ない」「全くしない」割合）

＜平成26年4月実施県調査＞



＜平成27年12月実施県調査＞



【読書活動、学校図書館の活用】

- ・「家や学校で普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間読書をするか」〈12〉について、30分以上の割合が、小6は35.7%で、全国調査時（4月）に比べ1.6ポイント増加しているが、全国平均（4月）に比べて2.0ポイント低く課題である。
- ・「学校図書館などの本を使って学習する授業が好き」〈15〉について、肯定的な回答割合が学年進行につれて減少する傾向にあり、課題である。

【地域社会にかかわること】

- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」〈29〉について、小6の肯定的回答率が46.6%で、全国調査時に比べ6.8ポイント改善しており、4月時の全国平均（44.8%）も1.8ポイント上回っている。中2の肯定的回答率は36.5%で、4月時の中3の県平均より5.1ポイント上回っており改善傾向である。

V. 教科に関する調査と意識調査のクロス分析結果

1. 指導方法と正答率の関係

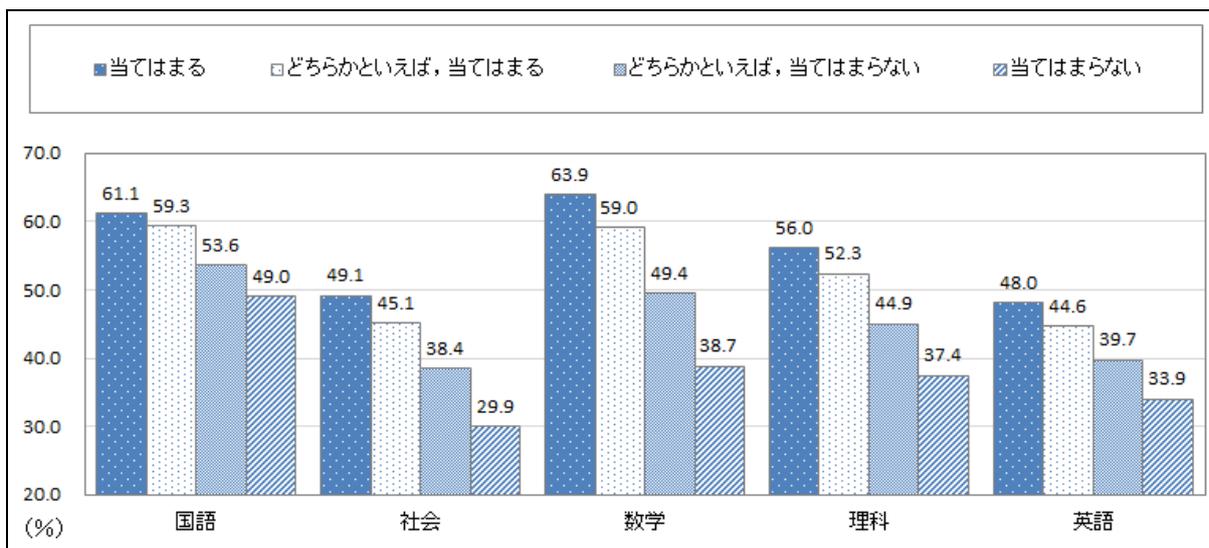
指導方法についての以下の項目に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向がみられる。

○授業では、自分の考えを発表する機会を与えられていると思う

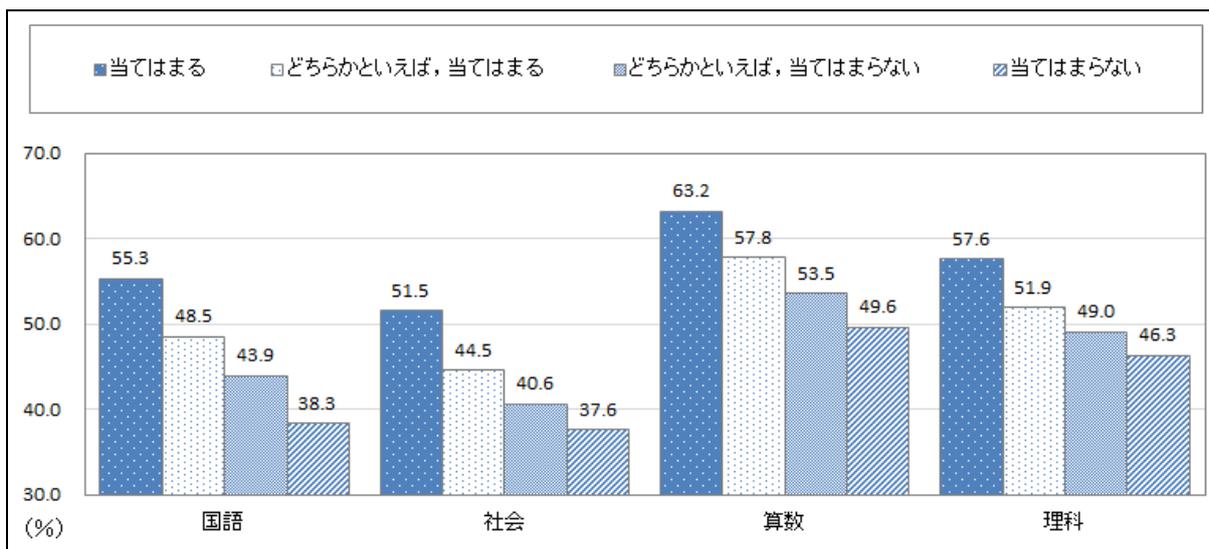
○授業では、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）が示されていると思う

○授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていると思う

- ・「授業では、自分の考えを発表する機会を与えられていると思う」の選択肢別正答率（中1）



- ・「授業では、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）が示されていると思う」の選択肢別正答率（小5）

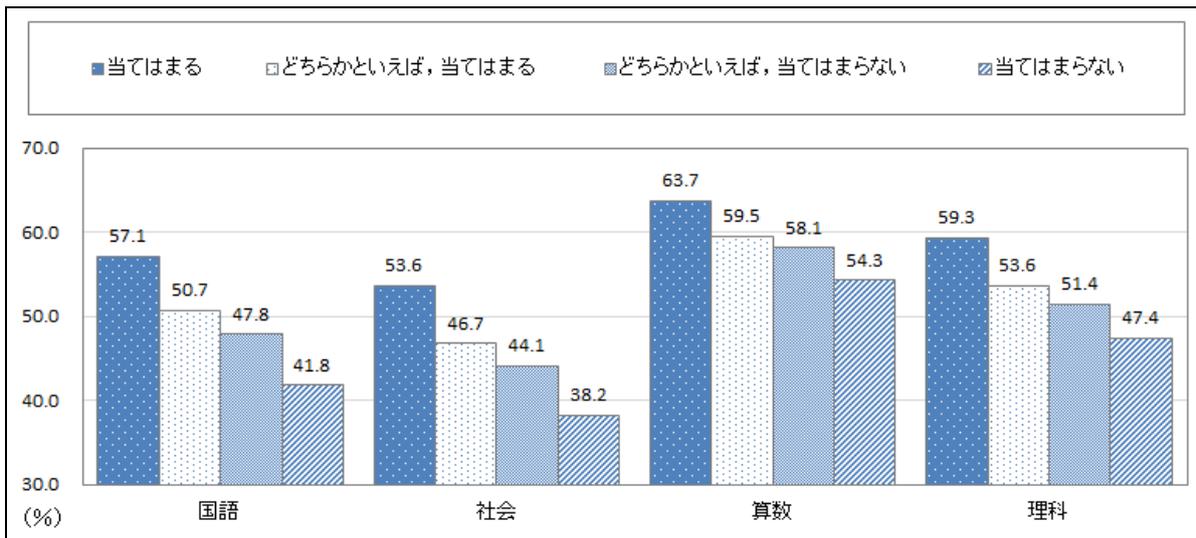


2. 学習状況と正答率の関係

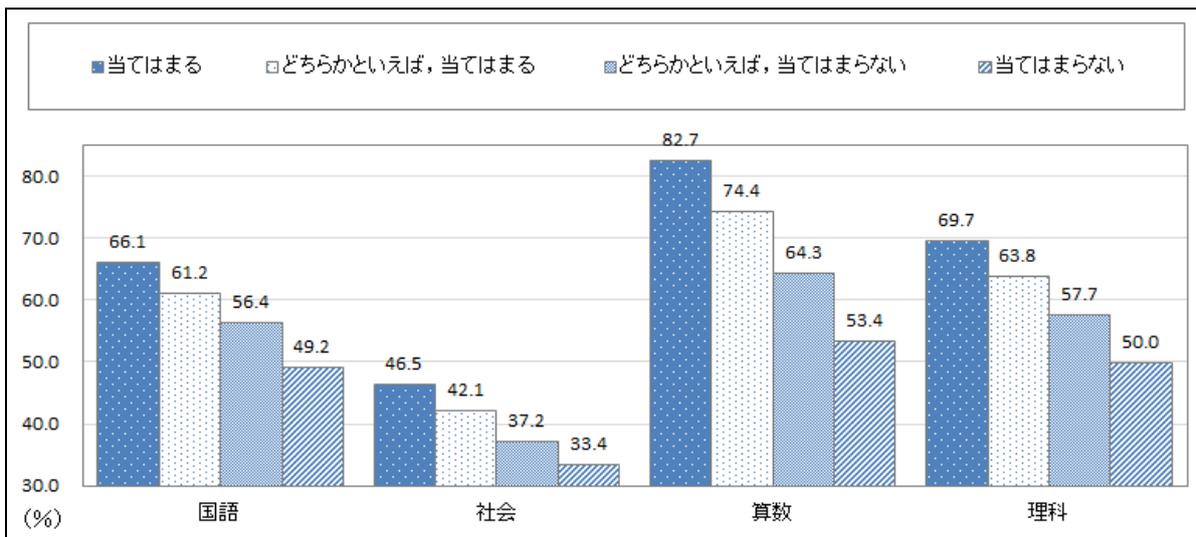
児童生徒の学習状況について、「学校の授業以外での学習」や「授業の内容の理解」、「根拠を明らかにして筋道立てて考えたり表現したりすること」「読書に関する意識」についての項目に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向がみられる。特に、以下の項目については、全ての学年・教科において相関がみられる。

- 読書は好きだ
- 算数・数学の授業の内容はよく分かる
- 家で学校の宿題をしている
- 英語の授業の内容はよく分かる

・「読書は好きだ」の選択肢別正答率（小5）



・「算数・数学の授業の内容はよく分かる」の選択肢別正答率（小6）



3. 学習意欲と正答率の関係

学習に対する関心・意欲・態度に関する項目に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向がみられる。特に算数・数学への関心・意欲・態度は、全ての学年・教科において相関がみられる。

○算数・数学の勉強は好きだ

○算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている

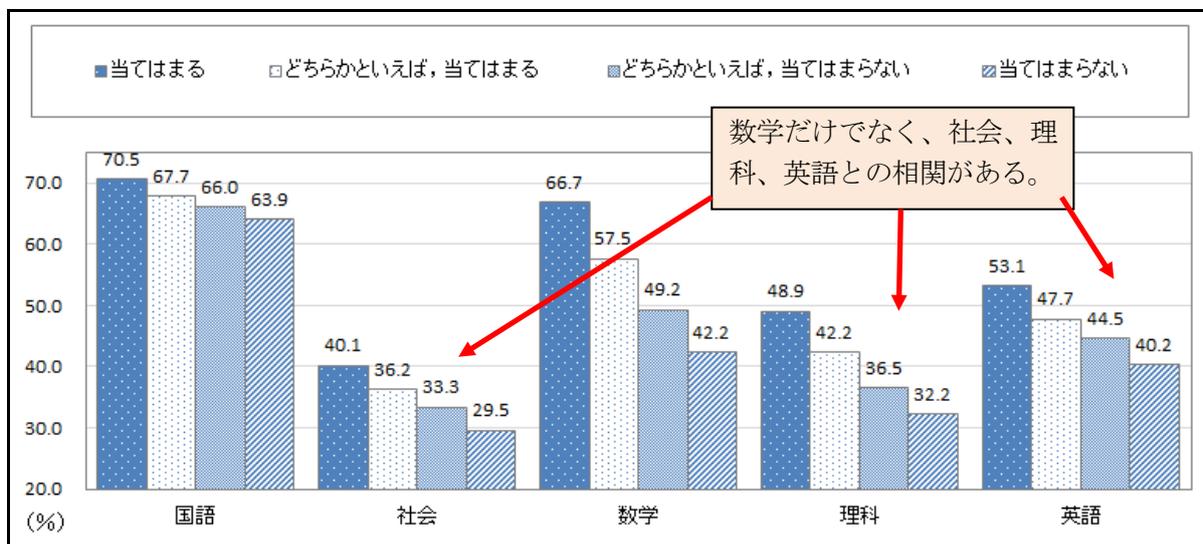
○算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える

○算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている

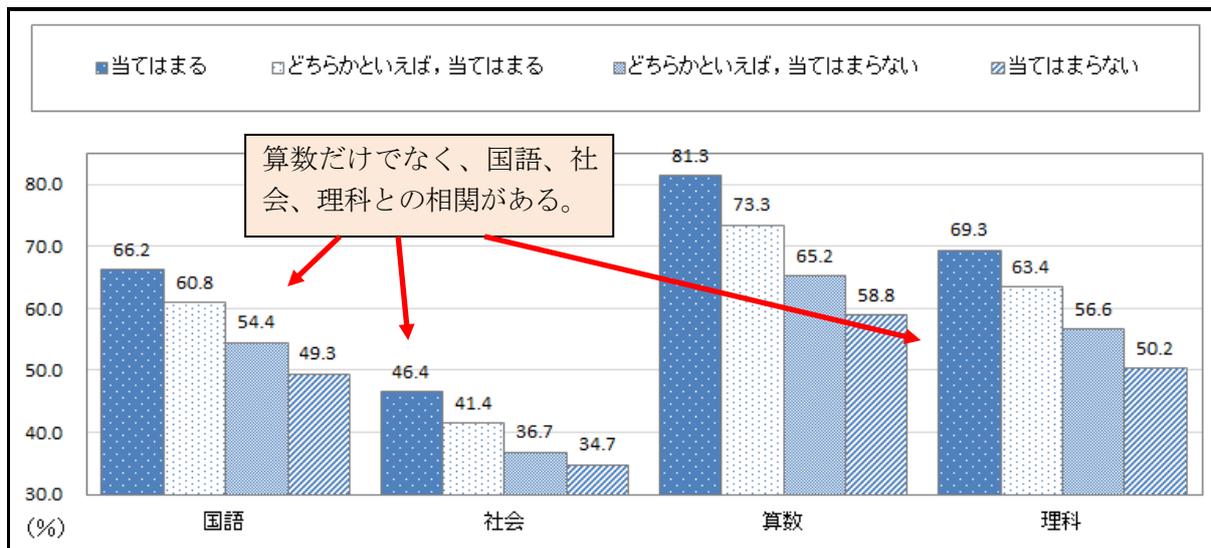
○算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える

○国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている

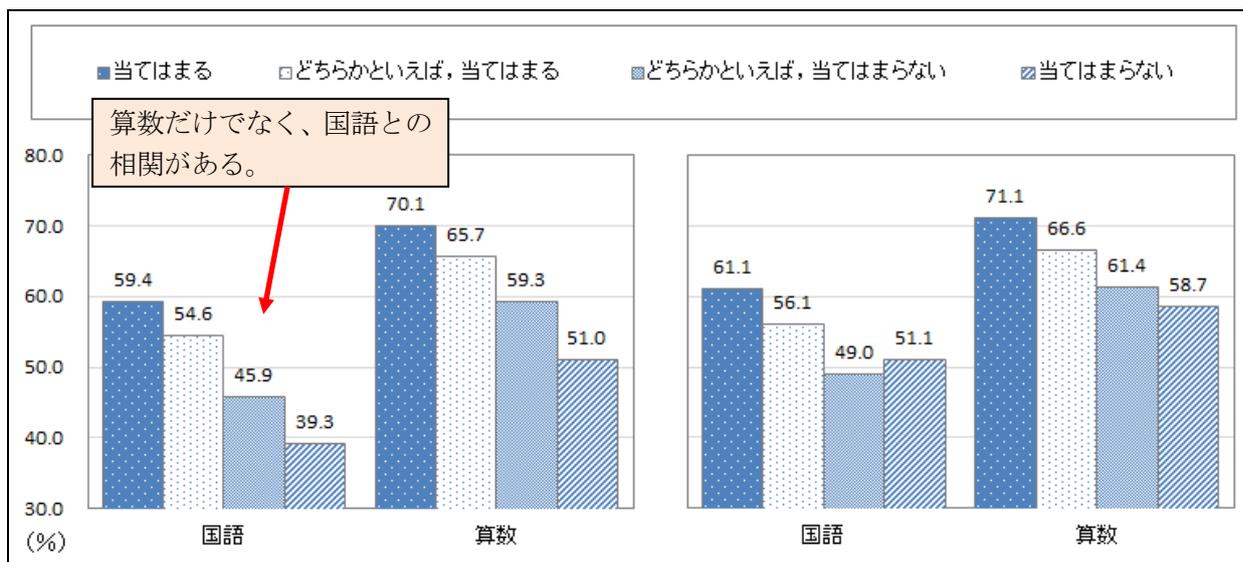
・「算数・数学の勉強は好きだ」の選択肢別正答率（中2）



・「算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている」の選択肢別正答率（小6）



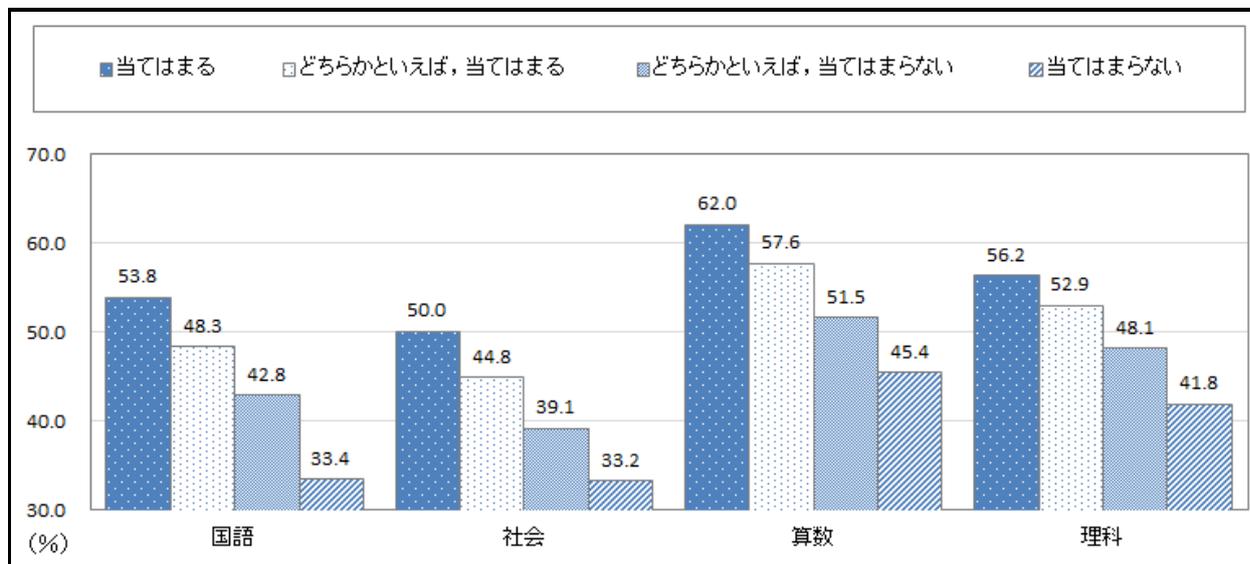
- ・「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」の選択肢別正答率（左が小3、右が小4）



4. 自尊心・自己有用感と正答率の関係

自尊心・自己有用感に関する項目に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向が見られる。特に児童においてその傾向が顕著である。
 ○ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。 ○人の役に立つ人間になりたいと思う。

- ・「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。」の選択肢別正答率（小5）



5. その他の相関

○基本的な生活習慣について、携帯電話やスマートフォン、テレビゲームを使用する時間が短い児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向が見られる。
 ○「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」という項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向がみられる。

VI. 今後の対応（しまねの学力育成推進プランに基づく取組）

県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

1. すべての小・中学校を対象とした結果説明会を実施し、結果を生かして各学校が組織的な授業改善や個別指導を進めるように働きかける。

各学校の組織的な授業改善の取組や個別指導の充実をめざし、学力と学習状況の課題の改善状況、今後の取組についての共通理解を促すため、学力育成の中核を担っている教員を対象とした説明会を実施。

- ・ 学校等の分析シートを基に今年度の取組の検証と今後の方策の立案
- ・ 個々の結果を踏まえたフォローアップシートを使った個別指導の充実

2. しまねの算数授業改善プロジェクトチーム会議を開催し、算数授業改善の方策等について検討する。

開催期日 2月15日（月）

3. 課題に基づく今後の指導改善のポイントについて、平成28年度「各教科等の指導の重点」にまとめ、すべての小・中学校に配付し、徹底を図る。

授業改善に向けた取組の視点や各教科等の指導改善のポイントを毎年発行している「各教科等の指導の重点」に記載し、指導訪問などで活用してその徹底を図る。

4. 家庭と連携して、主体的な家庭学習の取組を引き出す指導の充実を図る。